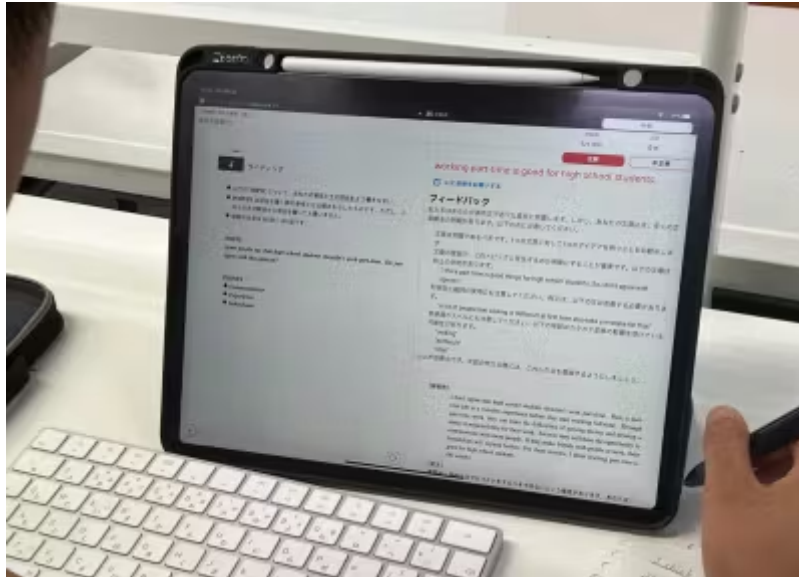


# チャットGPT、塾で活用 効率的な学習手助け 「東進」は英作文添削 ベネッセは自由研究支援

2023/7/30付 | 日本経済新聞 朝刊



メイツでは生徒の英作文をチャットGPTが添削する

教育各社で生成AI（人工知能）「Chat（チャット）GPT」を導入する動きが広がる。「東進ハイスクール」を運営するナガセは英作文の添削に生かす。生成AIは学習効率の向上を手助けする可能性がある一方、教育現場の導入には正確性や倫理面での懸念も強い。民間が先行し、効果的な使い方を模索する。

ナガセはチャットGPTを活用し、英作文を添削する機能を開発中だ。今秋をめどに高校生向けのクラスで導入する予定だ。生徒に英作文を書いてもらい、AIが単語や文法の間違いを指摘。適切な表現の言い換え案も提示する。

生徒は英作文学習ではこれまで、自分の作成した答案が正しいか確認するには学校や塾の教師・講師に聞くしかなかった。チャットGPTで答案がすぐに添削されるため、英作文の学習頻度を上げることができる。

この分野で先行するのはスタートアップや中小塾だ。大手塾にAI教材を提供するメイツ（東京・新宿）は、5月下旬からまず直営塾で導入した。実用英語技能検定（英検）対策講座で、生徒の英作文をチャットGPTが添削する。

## 文法のミス指摘

生徒はタブレット端末に自作の英文を入力。画面上に表示される「AIに添削をお願いする」というボタンを押すと、文法やスペルの間違いを指摘し、文脈に合わない表現の修正案を示す。難しい単語を使ったり、細かすぎる解説をしてしまったりすることもあり、生徒が一通り学習した後、添削内容を講師が確認するようにしている。

この塾に通う男子高校生（15）は「抽象的な指摘もあり、かみ砕いて説明してくれる先生の助けは必要だと思った。ただ、自分の解答に合わせて解説してくれるので模範解答よりも参考になる」と話す。

教育分野で生成AIの活用が広がる	
ナガセ、メイツ	英作文の添削。単語や文法の間違いを指摘し、適切な表現を提案
アタマプラス	苦手な英単語を使った物語文を作成
ベネッセHD	自由研究のテーマや進め方などを助言
学研HD	学習履歴から励ます言葉を表示

メイツの遠藤尚範社長は「（添削の精度が上がれば）人材不足の塾業界で、1人の講師でより多くの生徒を教えることができるようになる可能性がある」と期待する。今後は数学の証明問題の答案添削に機能を拡大することを検討している。

同じくAI教材を手掛けるatama plus（アタマプラス、東京・港）も直営塾で活用している。AI教材が生徒ごとに苦手な英単語を演習履歴から判別。その単語を含む物語文をチャットGPTが作成する。

物語は「昔話の桃太郎風に」と指示しており、著作権の問題を解決する。今後、英語や国語など記述問題の自動採点のほか、教材に使用する図やイラストの作成に活用する案があるという。

学習指導以外への活用も広がっている。

ベネッセホールディングス（HD）は25日から、チャットGPTを活用し、子どもたちの夏休みの「自由研究」のテーマ決めや進め方を支援するサービスを始めた。特設のホームページ

で「室内でできる実験は」などと質問すると、その後の対話を通じて、好みや興味に基づいて助言する。ベネッセHDは進路指導でもチャットGPTの活用を検討している。

学研HDは自社のメタバース（仮想空間）上の学習サービスで、過去1週間で取り組んだ問題数や正答数をもとに生徒を励ますメッセージをチャットGPTを使って出すようにした。「加法・減法の理解度が上昇しました。おめでとう」などと表示する。

生成AIを巡っては、文部科学省が学校での活用指針を公表した。英会話の相手として活用するといった具体例を挙げ、詩や俳句など創作の場面での安易な使用は不適切とした。

## 教育業に打撃も

学習塾では使用を学力向上に特化できるため、学校よりも導入を進めやすい環境にある。第一生命経済研究所の柏村祐主席研究員は「チャットGPTは問題を作れて、解答もできるほか、解答に至ったプロセスまで説明してくれる。暗記や計算など単純な学習の指導はAIに代替されるだろう」との見通しを示す。

生成AIは教育の質を高める可能性がある一方で、教育産業に打撃を与える恐れもある。米国では、チャットGPTへの関心の高まりが学生など顧客獲得の障害になるとして、オンライン教育を手掛ける企業の株価が40%以上下落した例もあった。教育各社は生徒のやる気を引き出す「コーチング」サービスなど、AIに代替されない分野に力を入れ、生き残りを図ろうとしている。

（鎌田旭昇）

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.